

(熊毛郡上屋久町口永良部島城ノ平)

位置と環境

城之平遺跡は、屋久島の西方約12kmにある口永良部島東部、湯向集落の南方、標高約80～120mの火山台地上に所在する。本遺跡は中世山城跡とも推定されているが、縄文後期が主体である。湯向地区周辺には、湯向集落遺跡・富田原遺跡が所在する。

調査の経緯

昭和28年（1953）上屋久村口永良部島の城之平遺跡の試掘調査が、三友国五郎・折田直実・国分直一・河口貞徳・盛園尚孝らによって行われ、縄文時代後期の遺物の報告がなされている。

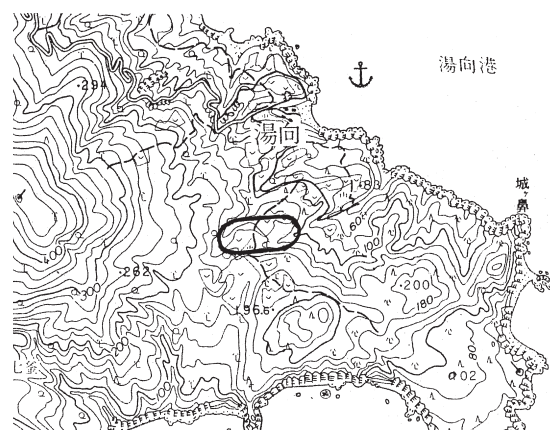
昭和62年（1987）には上屋久町教育委員会の遺跡分布調査事業として、鹿児島大学法文学部考古学研究室が、口永良部島の遺跡分布調査を実施し、城之平（城ヶ平）遺跡の採集遺物を報告している。

遺構と遺物

本遺跡の調査は、いずれも分布及び試掘調査であり、それぞれの報告書から出土遺物の記載にしたがって記述する。

昭和28年の調査では、縄文時代後期に位置付けられる市来式・一湊式・御領式土器が出土している。深さ1.9mくらいから黒土が赤褐色を帯びる層へ変移する層が見え、この層付近から遺物が出土しはじめ、包含層は最も深い部分で3mに達している。深さ2.2～2.3mの層及び2.4～2.5mの層に御領式土器、2.3～2.4mの層に市来式土器の口縁で無紋のものが出土している。また市来式土器と一湊式土器が共存して見られ、市来式土器は下層においても市来式土器の特徴をよく備えたものと報告されている。

昭和62年の分布調査では、市来式土器（第2図1）・一湊式土器（第2図2～6・10）・壺形土器・甕形土器（第2図7）・土師器片・須恵器片（第2図8）・陶器片・青磁片（第2図12～14）・白磁片（第2図15・16）・打製石斧（第2図17）・石皿等（第2図18）の縄文時代後期から歴史時代の遺物が表採されている。



第1図 城之平遺跡の位置

特徴

昭和28年の調査では、城之平遺跡は市来式文化の時代に、屋久島一湊に住んでいた者のうちから移動してきた者たちのコロニーとして営まれたものであり、その後御領式文化を取り入れる頃まで生活していたが、火山の爆発のためこの地を退去したのであろうと報告している。

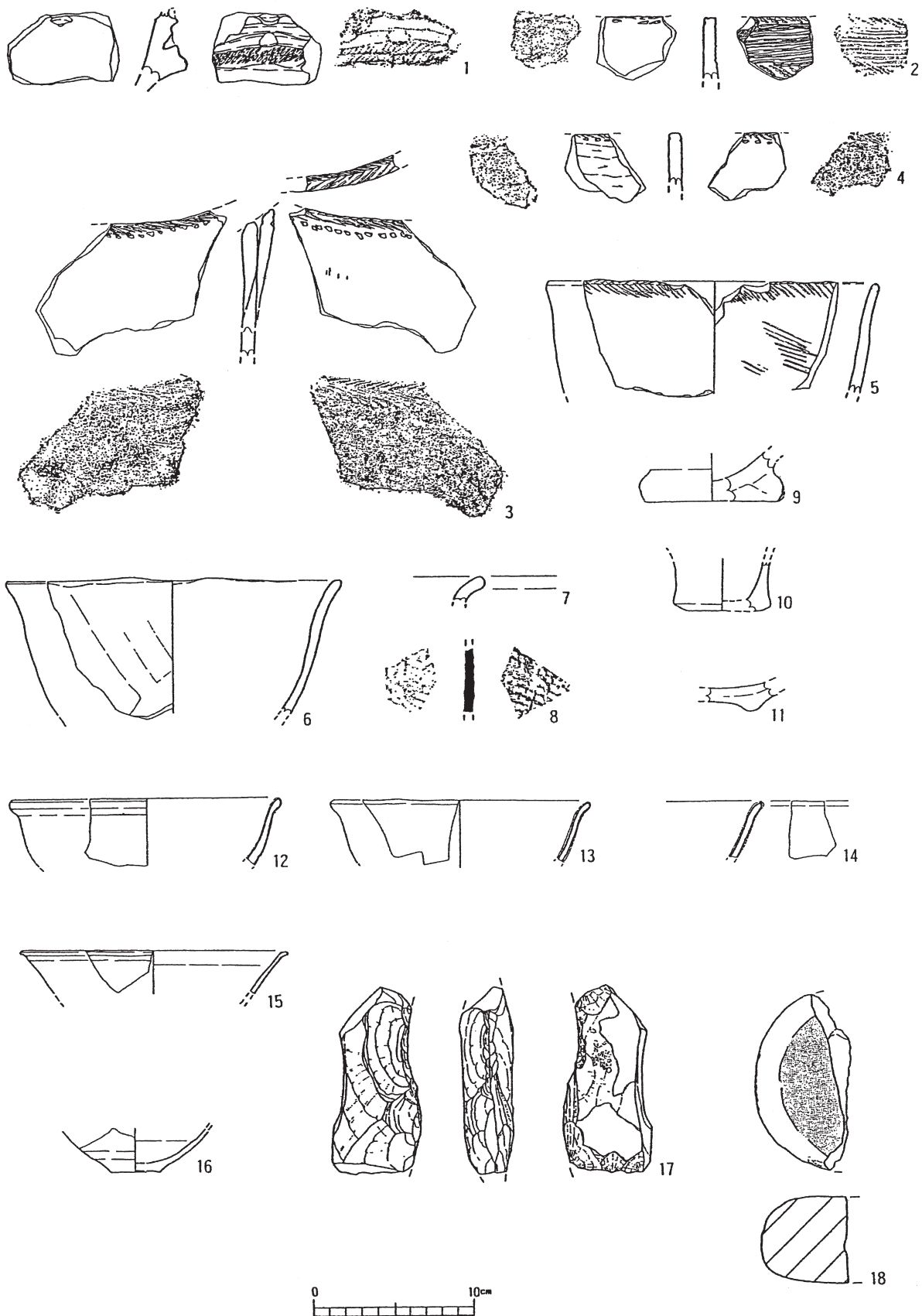
資料の所在

昭和62年調査の表採遺物は、上屋久町歴史民俗資料館に保管されている。

参考文献

- 国分直一1953「鹿児島県熊毛郡口永良部城之平遺跡」『日本考古学年報』6
 三友国五郎・河口貞徳・国分直一1955「口永良部島の調査主として湯向城之平遺跡の試掘について」『鹿児島県考古学会記要』第4号
 上屋久町1984『上屋久町郷土誌』
 上屋久町教育委員会1989「上屋久町の埋蔵文化財」『上屋久町埋蔵文化財報告書』2

(計屋正人)



第2図 表採遺物